

---

# ハプニングレンアイ (上)

杏

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ハプニングレンアイ（上）

### 【Nコード】

N79580

### 【作者名】

杏

### 【あらすじ】

恵理奈と聖也のレンアイ

胸のドキドキが止まらない……！

いきなりハプニング!!!!!!!!!! (前書き)

杏です。今回も基本的に恋愛をテーマにして「ハプニングレンアイ」を書きました。

これは、(上)なので(下)も後ほど書きたいと思います。

いきなりハプニング!!!!!!

「私、あなたの『好き』はわからない!!」

私は、青樹恵理奈14歳。たったいま失恋。私が恋した相手は、田崎裕太14歳。

同じクラスで密かに恋してた・・・。

そして告白する決心がついて・・・

「田崎君、好きです!!」

「えっ・・・」

「付き合ってください」

「あ、えとごめんなさい。俺、狩野美香ちゃんが好きだから・・・。

「えっ、やめたほうがいい!!あの子、裏ではすごく意地悪な子なのよ!!」

「何言ってるの?あんなに優しい美香ちゃんがそんなわけないだろう」

「えっちょっ信じてよ」

「・・・ごめんな」

「あなたの『好き』は、わからない!!」

酷い終り方でしょ。

でも、私が言った事は嘘なんかじゃない!!!

本当のこと。狩野美香ちゃんは美人で優しいと男子に評判のモテ女  
ってやつね・・・。

だけど、裏では友達をいように使ってキャバ嬢で働いてるの。

それを分かってほしかったただけなのに。

私は涙が溢れそうになる。空を見るといつそう悲しさが倍になって  
唇をかみ締めた。

次の日、私は狩野美香に呼び出された。

「あんた、私のことを田崎裕太に言っただわね？」

「うん、言って何が悪いの？」

「てめえ」

「やめろよっ」

誰・・・？私は美香に殴られて意識はすでもうつろつとしていた。

「・・・な!」「えれな・・・」「えれなっ!!!!気がついたのっつ  
???」

「……どっ？」

「保健室だよ」

「ああ、志保ちゃん。」

「ああじゃないでしょ、まったく」

「……誰が私をここまで運んできたの？」

「んーと名前がたしか『山下聖也』とか！」

「だれ？」

「知らないよー知り合いじゃなかったの？なんか友達がどーたらって言ってたけど」

「そう……」

山下聖也……どっかできいたことあるような。

あーもやもやする。考えるのやーめたっ

その日の帰り道

「はー今日はサンザンな一日だった。」

「やあ！元気そうだね」

「だっ・・・だれ？変態？？」

「ひっ酷いなあー聖也だよー山下聖也！ー！」

「ん？！せい・・・くん？？」

「きゃーせいくんだあー」

「さっきは変態扱いしたくせにー」

「ごめんってー」

「でもよかった。君に会いたかったんだ」

「どづゆづこと？」

続く 「ハプニングレンアイ下」

いきなりハプニング!!!!!!（後書き）

2個目の作品、「レンアイハプニング（上）」を見てくださりありがとうございます。

初の作品「私が語る私の恋」も見てください。

内容が幼稚くさいかもしれませんが多めにみてください（・・・）

「レンアイハプニング（下）」も宜しくお願いします。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7958o/>

---

ハプニングレンアイ（上）

2010年11月9日00時43分発行